完全対策講座 現代文

このPDFは、製品版の冒頭5ページを抜粋した
無料の試し読みサンプルです。目次・本文の書き方・
問題の出し方を確認してから、購入をご検討ください。

購入先

・黒田塾 教材プラン（科目別・セット価格、LINEで注文）
https://kurodaschool.jp/materials/
・BOOTHショップ「東大黒田塾」（ダウンロード販売）
https://kurodajuku.booth.pm/
・科目選びの相談（無料）
https://kurodaschool.jp/contact/

※ サンプルは製品版の一部です。収録範囲・分量の全体は
各販売ページでご確認ください。
※ 本サンプルは個人の学習用です。第三者への配布・転載・
転売・共有は禁止します。
※ 購入や読了による合格・得点を保証するものではありません。

高校現代文 理解・確認・実戦を一冊に

高校現代文
最短マスター

なぜそう読むのか。
根拠をたどり、自分の言葉で答える。

24	144	6
基礎から応用へ進む単元	各単元の穴埋め確認	初見でつなぐ総合演習

試し読みサンプル

初学者から難関国公立の読解・記述対策へ

一文の読み方から、評論・小説・随筆・詩歌、
複数資料・図表・要約・記述答案まで。
演習は各問の直後に、解答と詳しい根拠を配置。

確認・単元演習120問 + 総合演習36問
語彙80語 / 漢字40項目 / 慣用表現24項目

独習用改訂版 1.1 | 2026年10月31日

本文・問題は本書のためのオリジナル。最短の学習日数や合格を保証するものではありません。

最初に読む

使い方｜読んだ後に、再現する

一単元を「理解→想起→適用」で進める

まず解説と「一緒に読む」を読み、例がなぜそう解釈できるかを説明する。次に穴埋めの下段を紙で隠して答える。最後に演習の解答欄を隠し、本文の根拠に印を付け、自分の答えをノートへ書く。長い記述答案は別紙を使う。

指定の穴埋め形式

本文の答えを支える表現を①（　）という。
下段の答え ①……根拠
本書では、各文の左の① ~ ⑥と下段の答えを対応させている。

正解後も、二つの問いを残す

「どの言葉が根拠か」「ほかの答えはどこが違うか」を説明する。言い換えなら共通する意味、心情なら出来事と受け止め、資料なら分母や条件を言えるようにする。穴埋めが全問正解でも、初見の文章に適用できなければ、その単元はまだ練習中である。

復習は、答えを見る前に行う

学習した翌日には穴埋めと誤答した問題を、七日後には記述を解き直す。これは進め方の一例で、全員に最適な間隔を断定するものではない。すぐ忘れる項目は間隔を短くし、説明できる項目は少し間隔を空ける。

採点は、意味の要素で行う

解答例と一字一句同じでなくてよい。必要要素と関係が合い、設問条件を満たすかを見る。記述の配点は本書独自の自己採点用で、各大学の公式採点基準ではない。迷った答案は、根拠の文と一緒に先生や添削者へ見せる。

書き込みの約束

本文の番号【1】【2】は根拠の位置を示すための段落番号。〈 〉は注目する表現。字数は句読点・括弧・数字も一文字として確認している。実際の試験では、その試験の指定を優先する。

試し読みサンプル

できることを、初見問題で判定する

学習範囲と到達の確かめ方

本書は高校現代文の読解・表現を中心にした独習教材である。「現代の国語」「論理国語」「文学国語」などに関わる技能を扱う。古文・漢文、すべての漢字・文学史事項、各教科書の全作品は収録していない。大学の専門理論や研究手法の習得は扱わず、評論の用語も本文を読むための意味と例にとどめる。

領域	本書の主な対応	最後に確かめること
言葉・論理	01 ~ 10、語彙資料	未知の文章で限定・因果・主張を説明できる
要約・解答	11 ~ 16、総合1・2・6	必要要素を落とさず字数内にまとめる
文学的文章	17 ~ 20、総合3・4	視点、変化、表現効果に根拠を付ける
資料・表現	21 ~ 23、総合5	比較条件を確認し、目的に合う案を作る
難しい評論	24、総合2・6	未知の概念を例と定義から理解する

この一冊で「全部マスター」と言い切れるか

言い切れない。現代文の実力は、初めて読む文章で、限られた時間内に根拠を確かめて答えられるかで決まる。本書はその手順を一通り学び、練習するためのものだ。難関国公立を目指す場合は、修了後に志望校の過去問で文章量・設問形式・記述量に慣れ、第三者の添削で自分では気付けない省略を直す。

修了の目安は、点数だけで決めない

本書内の目安として、穴埋めは各単元5 / 6以上、確認問題2問と読解演習3問の計5問では、根拠付きで4問以上を目指す。総合演習は、選択の正解に加え、記述の主要要素を自力で説明できるか確認する。この基準は入試得点や合格を予測するものではない。再挑戦だけでできた場合は、別の初見問題で確かめる。

正解よりも、理由を確かめる

開始前チェック｜今の弱点を見つける

本文｜本書のための書き下ろし

道具が便利になれば、人の判断が不要になるとは限らない。目的地までの経路を示すアプリは移動を助けるが、そもそもどこへ行くかは利用者が決める。示された経路に通れない場所があれば、状況を見て変える必要もある。道具は判断を支えるが、目的や条件を確かめる仕事まで一律に引き受けるわけではない。

問 開始1 「判断が不要になるとは限らない」を「判断は常に不要だ」と言い換えられるか。

解答 言い換えられない。判断が必要な場合を残している文を、不要だという断定に反転している。

根拠と手順 不正解なら02へ。否定の範囲を取り直す。

問 開始2 アプリの例が示す、道具と利用者の役割の違いを答えよ。

解答 道具は目的への経路を示して移動を助けるが、利用者は目的地や現実の条件を判断する。

根拠と手順 不正解なら06・07へ。具体例から共通する関係を取り出す。

問 開始3 筆者の考えを60字以内でまとめよ。

解答例 道具は判断を支えるが、利用者は目的や現実の条件を確かめ、必要に応じて示された方法を変える必要がある。〔50字 / 60字以内〕

根拠と手順 不正解なら11・16へ。利点と限界を対比したまま一文にする。

採点の目安 判断の支援2点 / 目的・条件の確認2点 / 方法の変更1点。

進む位置

三問とも根拠まで説明できた人は01 ~ 10を確認中心で進める。正答できても理由が曖昧なら、最初から順に取り組む。文学・資料の力は17以降と総合演習で別に確かめる。

試し読みサンプル

各単元は、理解・穴埋め・演習の三段階

目次｜言葉から論の流れへ

単元	学ぶこと	ページ
01	本文の根拠から答える	7
02	一文の骨格と否定の範囲	10
03	語彙を文脈の中でつかむ	13
04	指示語と言い換えを追う	16
05	接続表現で論理をつなぐ	19
06	具体例から抽象的な主張へ	22
07	対比の軸をそろえる	25
08	原因・条件・推論を区別する	28
09	段落の役割と文章の地図	31
10	主張・譲歩・反論を分ける	34
11	要旨と要約を組み立てる	37
12	選択肢を意味の単位で照合する	40

読み進める順序

01～03で一文を正確に読む。04～08で文どうしの関係をつかむ。09～11で全体の主張をまとめ、12で選択肢へ適用する。つまずいたら最初から全部をやり直さず、誤りの原因に当たる単元へ戻る。

PDFのしおりから、単元・総合演習・付録へ移動できる。ページ番号はPDFの通し番号と一致する。

試し読みサンプル